



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

のびっ子矢倉前のひまわり

2学期のスタートです。

挑戦する心、がんばる気持ちを大切に！



前号で「この長い夏休み。子ども達には、自分のやりたいこと、やるべきことをしっかり決めて、計画に従って規則正しく生活し、『挑戦するぞ!』『がんばるぞ!』の気持ちを大切にしてお過ごししてほしい」と掲載させていただきました。子どもたちが、「どんなことに挑戦したのか」「どんなことをがんばったのか」、また、長い休みを地域の中で過ごした子どもたちの様子も気になります。「あいさつはちゃんとできていたのかな?」「地域の行事への参加はどうだったかな?」2学期が始まって、夏休みの様子を聞けるのが楽しみです。ご家庭でも、地域でも機会があれば夏休みの振り返りをしていただけると嬉しいです。

2学期が始まりました。1年間の中で一番長くて、一番行事が多い学期になります。子どもたちには、仲間と一緒に、多くの出会いと多くの経験をしてほしいと思います。

引き続き温かいご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。



1学期の終業式では「あいさつ」について話をしました。少しずつですが「あいさつ」が大切だと気づき、行動できる「なかま」が増えてきました。2学期も「あいさつ」があたりまえのやぐらっ子を目指します。

今年度がスタートした4月の始業式・入学式で『ありがとう』『ごめんなさい』がちゃんと言え人になろう。自分のために何かをしてもらったら『ありがとう』困らせてしまったり、悲しませてしまったりしたときは『ごめんなさい』、ちゃんとその時に言えたらいいね。その時言えなくても後で『ありがとう』『ごめんなさい』の気持ちを言えたらいいね。矢倉小で大事にしてほしいことの2つ目の「なかま」を大切にしてほしい。」と話をしました。2学期は「なかま」を大切にできるやぐらっ子を目指します。

「一人で悩まないで！」

一緒に考えよう。一人じゃないよ。」



以前勤務した学校でのことです。

誰かを攻撃する嫌な言葉や落書き。学校の中のいたるところで年間数十回も発生させてしまった異常な事態。「なぜ?」「どうして?」大人も子どももどうしたらいいのか何度も何度も話し合いをし、今の自分たちに何ができるかを考えました。大人の頭は固いのでしょうか…指導する。注意する。そんな当たり前の答えしかでてきません。子どもは、「落書きは誰が書いたかわからないし、どういう思いで書いたのかもわからないから不安になる。許せないけど、なんで落書きをしたのか思いを聞いてあげたら…何か思いがあるのかもしれない。誰にも言えないしんどい思いをしているのかもしれない。」と言ってくれました。この思いをみんなに伝えよう。ということになり、全校集会を開き、代表の子どもがみんなに「落書きはいやだ。腹が立つけど、こんなことするにはきっと何か思いがあると思う。悩みがあるなら話してほしい。聞くよ。一緒に考えよう。」と心を込めて伝えてくれました。

「一人で悩まないで、一緒に考えよう。一人じゃないよ。」とメッセージを全校に発信してくれたのです。

誰かを攻撃する言葉や落書きが0になったわけではありませんでしたが、自分の思いを伝えることができる。自分のしんどいことを聞いてもらうことができる。仲間の思いを聞くことができる。そんな輪が広がっていきました。子ども同士だけではなく、教師同士、子どもと教師、保護者と教師、自分を語る事が自然にできるようになっていきました。

一緒に悩み、考えてくれる仲間がいることがどれだけ心強いことか・・・。



自分の身近にそんな仲間はいますか？

子どもも大人も「一人で悩まないで、一緒に考えよう。一人じゃないよ。」

主役の子ども・教職員・保護者・地域、私たちは大切な仲間です。

この学校でよかった。この地域に住んでいてよかった。そう言える環境をつくっていきましょう。

校長 石井千鳥

民生児童委員さんとの懇談会



7月21日(木)各ブロック分団の民生児童委員さんと矢倉小職員が懇談をもちました。

学校からは1学期の子どもの様子を各学年でお伝えし、地域での子どもの様子についてお聞きしました。

民生児童委員さんからは、「よい環境で子どもを育てることが大事だと感じている。」とお話をいただきました。

また、登下校の様子の中で歩くことへのルール(横断歩道の渡り方・歩道橋のある横断歩道・グリーンベルトなど)について大人も子どもも再確認が必要だとのご意見もいただきました。



7月29日(金)

守山市民ホールにて

青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会で45年継続加盟校の表彰を受けました。実践活動報告や特別記念講演では、元プロ卓球選手の水谷準氏のお話を聞かせていただきました。